

C 21

福岡縣
尋常師範
學校

文部
讀本

小學習字帖

高等科用

七

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 3 2 9 4 3 a

福岡教育大学蔵書

| | |
|---------|-------|
| 教 育 部 | |
| 教授法 欸 | 書 道 項 |
| 目 | 次 |
| 全 冊ノ内第 | 冊 |
| 分番 類號 第 | 號 |
| 372.82 | |

T1

72

F7

MADE IN JAPAN

福地源一郎著

正價金八錢

文部讀本小學習字帖高等科用七

海石村田浩藏書

武家職制事ハ足利氏ノ初ニハ
執事職アリ後改メテ管領ト唱ヘ

次ニ侍所ノ別當アリ侍所ノ頭人
トモ呼ビ其外武者頭奏者等ノ職

アリテ概シ其家ニ由テ其役ヲ勤
メタレバ三管領四職ナドノ稱ア

リキ又將軍ヲ尊ビテ公方ト云ヒ
タルモ此時ニ始マルト云ヘリ豊

臣氏ノ時ニハ五大老、三中老、五奉行
ヲ置キタリシガ徳川氏ニ至リ

テハ大老、老中、若年寄ヲ置キ譜第
ノ大名ヲ以テ之ニ補シ次ニ三番

頭三奉行、大小目付等アリテ文武
ノ政ヲ分掌シ又京都ニハ所司代

テハ大老、老中、若年寄ヲ置キ譜第
ノ大名ヲ以テ之ニ補シ次ニ三番

頭三奉行、大小目付等アリテ文武
ノ政ヲ分掌シ又京都ニハ所司代

大阪ニ城代其他ノ要所ニ奉行
地方ニ郡代々官等アリテ政治

ヲ行ハレタリキ是其概略ナリ

楠刺官正成を延元之年五月十六

日ふ都をまてゐる飢饉うて各處
づから里ける正成これをつね後乃

金銭と思ひふれは嬌子ふりぐと
年十歳うて供へりけるを思ふ

松ありとて桜井に宿より河内へ
返り巻けとて庭訓を残しけるい

獅子の子を産むとて二日を経る時
数子丈の石壁より是を擲ぐは子

獅子の機分はまゐ教へどふ中
より跳ねぬりて死する事を得ず

と云り況や汝もぐに十業ふ能
るぬこそ身ふらむ我教誠なり

獅子の機分はまゐる教へどふふ中
より跳ね返りて死する事を得ず

と云う況や汝もぞに十業ふ能
るぬこそ身ふるも我を滅す

あふ事なれを友の合我天下の
安否と思ふ間今もあてはがれを

見んと是をばつと思ふなりふ
成敗ふ討死とて聞ふは天下必ず

將軍此代と表りぬと答はづ一然
と雖も一旦乃命を助うん

為ふ多生の忠烈を失ひて降ふ
はづることも有るべし一族の業の

一人も死残りてあられん程に金剛
山の邊ふり籠りて歎きて来ふは

を著る由が矢先ふ熟きて家と紀信
の忠ふはふ魚一尾とて汝が第一乃

老りふらんむとほち合めそ
吾系物別まふ々孝

往時コレラノ初メテ我國ニ傳播
スルヤ人或ハ狐怪ナリトノ妄説

ヲ唱へ世ノ愚輩翕然トシテ之ニ
和スルノ有様ナリレガ其後此病

ハ「ゴンマバチルレン」ト云ヘル細小
ナル黴菌ノ所爲ナルコトヲ發見

セリ又脚氣病、熱病、肺病モ同ク其
病ノ原ヲナスベキ小菌ノ體中若

クハ局部ニ蔓延、團結スルヨリ起
ルト云フコトヲモ見出ダセリ其他

蠶兒ノ微粒子病ノ如キ從前ハ肉
眼ヲ以テ窺フヲ得ズ人々只形跡

ニ就キテ暗中ヲ摸索セシモノモ
今ハ海上ノ噴火山ヲ見ルが如ク

明白トナルニ至レリ抑此發見ハ
何物ノ助ケニ因リテ然ルヤ全ク

顯微鏡ノ使用法熟練ノ度ヲ進メ
テ天地間ニ包藏スル造化ノ秘蘊

ヲ發キシ學問ノ勤勞ナリト言ハ
サル可カラズ此後益講究ノ術ヲ

盡シテ息ム事ナクバ終ニ彼ノ惡
ムベキ害菌ノ増殖ヲ制シ疾病ノ

跡ヲ絶テテ世界一般ノ人民其利
ニ浴スルヲ得ルニ至ラン

徳川家の町三ノ家と稱セーハ尾羽
紀州水戸なり何れともお軍の二門

ふそ其居城の尾張の名古屋紀伊
の和歌山常陸の水戸ふらひて彼の

有名ふる徳川之國卿を即ち此の
水戸藩主ふそは生江守郎を尾州

いそれ市谷門が士官学校、此を
赤坂離宮、水戸、山石川砲兵工廠の

新より、然中水戸、常山江
戸山存りて將軍の補佐なり、然

以て幕府の士人を尊重し方ふ
どもひまは問合を有りふ不偏

二月廿八日

古塚守人

西山壽藏様

人間ノ智力未ダ發達セザリシ時
ハ腕力ヲノミ尊ビ唯敵ト戰ヒ打

チ勝ツヲ以テ此上モ無キ名譽トセ
リ故ニ其演戲ニモ真劍ニテ試合ヲ

爲レ又野獸ト人ヲ戰ハシメテ觀
客ヲ招キシテアリ此事羅馬ノ古ニ

盛ニシテ其餘風今猶西班牙ノ闘
牛ニ殘レリ元來闘爭ノ事タル有

道ノ士ハ之ヲ不徳ノ事トスナルニ
人間ト猛獸ト相戦ヒテ血ヲ流ス

ノ慘狀ヲ觀テ以テ樂ミトセシハ驚
クベキ残忍ナリシナラズヤ我國ハ

古ヨリ武ヲ尚ビ勇ヲ稱スルノ氣
風ナリト雖モ道義ヲ守リテ慈愛

ヲ忘レサルヲ以テ今日ニ至ルマデ
斯ル淺間ニキ有様ハ未ダ曾テ夢

ニタニ見聞セズ寔ニ賀ブ可キ事
ナリト云フベシ

古文書の模寫本一帖此程靜岡乃
叔父より貰ひ受けに間奉る旨覽い

此中弘文天皇は五絶新紙光明皇
后の経切、之利義昭が織田信長へ

の慰問状、豊臣秀吉より小西行長
への感状、永祿寺に寺領五百貫の

朱印、細川三齋乃誣草、徳川家康
より秀忠への遺訓書、將軍家光が

南蠻人放逐の令状、徳川光國が大
日本史編纂の趣意書、松平伊豆守が

天草征伐の軍令狀板倉内膳正が
討死の節鎧の引合ふありと云へ

る「名のみ云く」の短冊寛永年間の長
崎宗有證文朱舜水が湊河碑文の

草履其他中に藤樹能澤蕃山由井
正雲新井白石等の詩文並手翰

など頗る珍奇のものと被存を思
ふふ適ひ候はゞ此留置までゆぐ

所覽可被下飛拜具

三月十五日

西川文藏

野呂榕庵先生

和年破中宮宅信濃川十代將軍

家齊の時、老中たり大ふは前の
契政を改め、奢るゝとまり、節位とそ

む留まふを旨とし、武備を家の中持
小外艦の家を海を親しむを却之と

終るめんとて何る年れ春當時の面
工谷文鼎をうて寶船の図を作ら

しめ自らこれふ替りて曰く「この
船乃よふてふことを夢の間も忘

まぬづ世の憂なりたる然れども
此時をば日くくして士民悲憤

小流は外海にのちまを措きて去る
何れも若なり後弘化より嘉永あ

政ふ及び外船屬をりて天下強然
をり人々始めて信の遠識は彼

きより信退老して樂翁と號
す其餘地の奥州白河なるに以て

妾の白河少將と稱は

汝等此帖ヲ學ブ時ハ年當ニ十餘

歳ヲラン此レヨリ一事一業ヲ心

トシテ剛毅忍耐或ハ書籍上ノ智

識ヲ磨キ或ハ實地ノ經驗ヲ怠ル
ヲ勿レ見ヨ世界ノ廣キモ三箇月

ニシテ周航シ得ベキニ非ズヤ勉
強止ムナクバ世上豈成ラザルノ

事アラシヤ今日我々が西洋ノ譯
書ヲ繙キ醫學、理學、化學、植物學、農

學、地理、歷史等ヲ知ルヲ得ルモ皆
新井、西川、西、吉雄、青木、前野、桂川、杉

田、大槻、青地、宇田川、箕作、緒方等、
先進が刻苦勉勵其歲月ヲ和蘭學

ニ委子ラレタルガ故ニアラスヤ彼ノ
伊能忠敬翁ノ如キハ年十八ニシテ

家ヲ嗣ギ五十歳ニシテ退隱シ其
レヨリ天文地理ヲ脩メテ六年ノ

間ニ習熟シ五十六歳始テ全國ノ
測量ニ著手シテ十八年間ニシテ

其業ヲ全クシタリト云ヘリ汝等
今ヤ皆春秋ニ富ムモ日月ハ夢ノ

間ニ過ギン若シヨク心ヲ用ヒナ
バ此翁ノ大業ト雖モ敢テ企テ及

ブ可ラズトセンヤ勤メモヤ

西自分事生に酒を嫌をまふ

何よりこれ幸福に酒の為ふ
誤りて貧困に陥り終ふは人々對

志て誠実を志すひ果て飛入るお成
作との世方に生れしうさぐべい

目所自分たぬき少年の學問勉強
あるてふあつて勿論ふいづる者ふ

留後を磨きし氣力を著し難きも
凌ぎ辛苦いと堪へて志を達し

業をいふとぞと云ふは
中途少く挫くことあるべし

物来当業をふるも貧困を免る
も諸君に念ふゆゑ言ひ聞せ

心は銘一筆そのほづと云ふ賢

五月十日

母より

神保信淵版

明治官制大略ヲ云ハバ先ニ太政

大臣左右大臣參議諸省卿ト分レ
レモ其後種々改革アリテ今ハ

内閣總理大臣諸省ノ大臣ト共ニ
庶政ヲ管理スルコトナレリ即チ外

務ハ外國交際ノ事ニ當リ内務ハ
國內ノ安寧人民ノ保護ヲ掌リ大

藏ハ全國ノ財政ヲ理シ陸軍ハ陸
地ノ兵備ヲ管シ海軍ハ軍艦ノ事

ヲ統ベ司法ハ裁判事務文部ハ教
育事務農商務ハ農工商業遞信ハ

通信運輸事ヲ司リ又宮内大臣
宮中ノ事ヲ理ス故ニ文教内ニ舉リ

武備外ニ張り 皇室ノ尊榮ハ日ニ新
ニ人民ノ幸福ハ月ニ進ム吾人此盛世

ニ遭遇スルモノ豈今日ノ泰平ヲ歌
頌セズレテ可ナラン哉

版權所有

明治廿四年十二月
廿四日出版
明治廿四年十二月
廿七日登錄
明治廿五年三月
廿四日訂正再版
文部省檢定濟

著者 東京府民 福地源一郎
書者 大阪府民 村田浩藏
發行所 東京府民 西田傳助
印刷者 東京府民 西田傳助

印刷 繁本良之助
製本 廣岡幸助
發賣 廣岡幸助
大販 廣岡幸助
賣所 廣岡幸助
日本圖書會社
同支社
同支社

